CONCORD Study Investigators' Meeting および NAACCR Annual Meeting に参加して

津熊 秀明
大阪府立成人病センター調査部

本年6月8日にカナダ・トロントでCONCORD Study Investigators' Meetingが開催されました。本研究の中心者の1人Michel Coleman教授（ロンドン大学）からのお誘いを受け、大阪府がん登録を代表して研究会に参加する機会を得ました。本研究会は6月11-13日開催のNorth American Association of Central Cancer Registry（NAACCR"ネイサー"と発音）Annual Meetingのサテライト・プログラムとして実施された為、この会にも出席することが出来ました。ともに大変充実した内容で、大いに刺激を受けて帰って来ました。

CONCORD Studyは、EUを中心に始まったヨーロッパ諸国の地域がん登録生存率国際協同研究 EUROCARE Studyを源流とし、大西洋を横切るヨーロッパと北アメリカ（カナダ・アメリカ合衆国）との生存率に関する大規模な国際協同研究です。Coleman 教授のお誘いもあり、CONCORD Studyには、日本から大阪府がん登録（味木和喜子）が、またオーストラリア（国家レベルでがん登録事業実施）が、オブザーバー参加しています。1985-89年診断患者の5年相対生存率を標準方式に則り算出したEUROCARE II Studyから、ヨーロッパと北アメリカの、特に成人のがんの生存率に格差があることが示唆された為、CONCORD Studyでは、格差の実態とその要因を明らかにするべく、Phase 1（1990-94年診断患者についての標準方式による地域・国家間の5年相対生存率比較）、Phase 2（1997年診断の乳房、大腸、前立腺の各がん登録患者について標本抽出を行い、それらについて診療録に遡り、詳細情報、追跡情報を収集。3年生存率、再発率等について格差の有無・要因を分析する）、Phase 3（Phase 2で標本抽出したケースの病理標本を少数の専門家が独立して判定する）の各協同研究が展開されています。

今回のMeetingでは、ヨーロッパ、アメリカ、カナダから、それぞれ16人、23人、9人、それに日本から私とオーストラリアから1人の計50人が参加し、研究の進捗状況を中心に報告と討議が行われました。Phase 1 studyについてはヨーロッパの各登録からデータ収集が終了し、データ解析の事務局を努めるイタリアの研究グループから、EUROCARE-3としてPreliminaryな生存率成績の報告がありました。私共の報告を含め、ほぼ全部の抄録とスライドがWEBで公表されていますので是非ご参照下さい(http://www.lshtm.ac.uk/eph/ecph/concordinvestigatorsmtg.htm)。2003年中に全研究結果を出すべく作業が進められています。なお6月11日夜に開催されたCONCORD Studyの運営委員会にも参加する機会を得ました。わが国の「地域がん登録」研究班で進められている生存率協同調査の概要とPreliminaryな成績を発表しておりましたので、運営委員会では、大阪だけでなく高い登録精度と正確な予後調査を実施している山形と福井にもCONCORD Studyにデータ提出出来ないかと提案され、受諾の方向で検討を進めることになりました。オーストラリアの参加も現実のものとなり、CONCORD Studyの枠組みが今後大きく拡大される見込みです。

NAACCRは、北米におけるがん登録の標準化、実務者の教育・トレーニング、地域がん登録の精度の認証、データの集積と公表、登録データのがん制圧・疫学研究への活用、等を目指して1987年に設立されました。今回の年次学術集会には、アメリカ・カナダの全地域がん登録室、関連の政府機関、学術団体等から、数百人を超える参加があり、沢山の発表と活発な討議が行われました。サテライトで開催されたワークショップ、SEER*Stat、SEER*Prep等の講習会を含めると、6月8日から15日までの8日間に及ぶ大規模な催しでした。NAACCRの現会長はLouisiana Tumor RegistryのDirectorでありかつLouisiana州立大学の教授を務めるDr. Vivien Chen（中国系女性）ですが、2002年大会を主催したのはCancer Care OntarioのDr. Eric Holowatyでした。大会のメインテーマは「がん制圧における公平の達成」で、がん罹患リスクとがん制圧における社会的、地理的不平等に焦点を当て、解消に向けての方向性を探ろうとするものでした。メインプログラムのあった6月11日から13日の3日間に4つの全体集会（「健康における不平等」、「社会階層：理論と指標の計測」、「討論：合意の無い疫学研究は果たして重大なPrivacyの侵害に当たるか」、「がん制圧における公平の達成」）と25の分科会、それに58のポスター発表があり、いずれも大変魅力的な話題を扱っていました。口演発表は殆ど全てPowerPointによる液晶プロジェクタを用いての発表で、Requestに応じてファイルを提供してくれる演題も多くあり、私もいくつか送って頂きました。NAACCRのHomepage（http://www.naaccr.org/）には近日中にDr. Chenらのオープニングの講演スライドをアップするとのことですので、是非ご参照下さい。

今回の参加を通して心に強く感じたことが2点ありました。1つは、北米、ヨーロッパ、オーストラリアでは